

通常学校における特別支援教育

○対象となる子どもたち

「LD、ADHD、高機能自閉症等…」→「国民のわかりやすさ」「他省庁との連携のしやすさ」などを理由に【発達障害】の標記に統一する（文部科学省 2007年3月15日）

- ・ LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症 とは…

○通常学校の体制づくり

校内委員会～①教職員のたいする研修の組織化

- ②通常学級に在籍し十分な教育的対応ができない子どもの実態把握
- ③校内での対応策の立案、個別の指導計画作成の支援
- ④在校生全体への障害理解教育の推進
- ⑤個別の教育支援計画の作成
- ⑥保護者の相談・支援
- ⑦教育相談、就学指導
- ⑧関係機関との連携、専門家チームとの連携、巡回指導の導入
- ⑨計画進行や結果についてのチェック

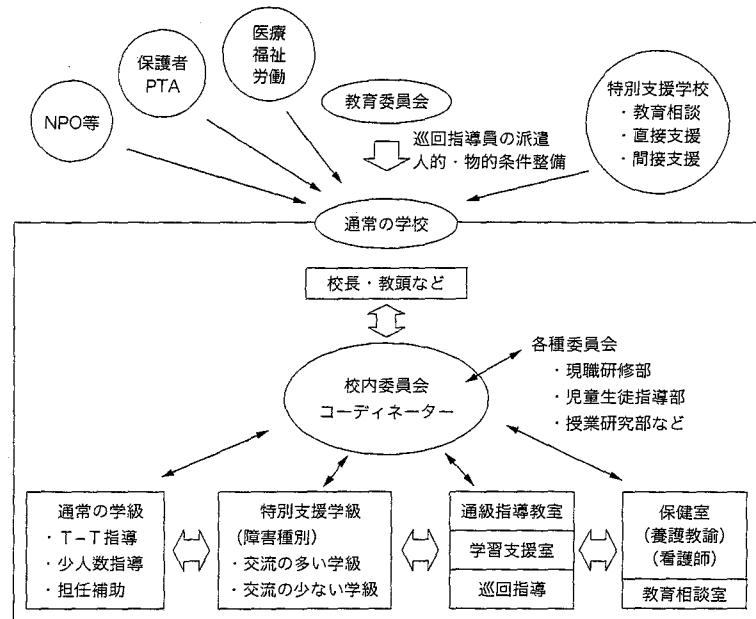
特別支援教育コーディネーター～上記の仕事を中心になって進める

校長から「指名」された教員であるから、自分のクラス担任をしながらの仕事はかなりの負担となる。改善しなければならない課題である。

（相澤雅文ほか『必携・特別支援教育コーディネーター』クリエイツかもがわ、2007年より）

学校ぐるみの特別支援教育

【コーディネーターの責務】	
①	校内の関係者や障害児学級との連絡調整
②	地域の関係機関との連絡調整
③	保護者に対する相談窓口
④	学級担任への学習集団づくりを含む支援
⑤	専門家チームや巡回相談員との連携
⑥	校内委員会での推進役
⑦	特別なニーズを抱える子の記録保持
⑧	養護学校との連絡調整
⑨	「個別の教育支援計画」の作成
⑩	進学先校への引き継ぎ
⑪	障害児の個人情報保護管理
⑫	学習サポートやボランティア等の指導
⑬	教育相談の実施計画の立案と実施



【通常学校の障害児教育】(クリエイツかもがわ) 191頁掲載の図「通常学校の特別支援教育システム」を改変したものです。

※幼稚園や高等学校での「特別支援教育」

特別支援学校の教育改善・充実の課題

(参考：東京都障害児学校教職員組合：2006 障害児教育黒書)

○知的障害養護学校の課題・過密など教育条件整備の課題

教室不足 スクールバス …

○寄宿舎廃舎は正しい道か

○訪問教育の充実課題とは

○「障害種別をこえた学校」の専門性の確保

○高等養護学校の一部に見られる「競争」

平成18年度の教室配置

学級数：31

小低9（1年3、2年3、3年3） 小高12（4年4、5年4、6年4） 中10（1年3、2年3、3年4）

教室数：29につき、2教室を2学級で使用予定

網掛け部分が本来の使用目的の特別教室や部屋

